

## 令和2年度 事業報告

### 第1 公益目的事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学研究とその指導法、及び作詩法の研究指導機関として広く吟道指導者を育成指導し、不特定多数の者に吟道の普及振興を図るため、今年度は創立40周年記念大会の開催等を積極的に展開する予定であったが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令等、厳しい状況下に置かれ、多くの活動の中止を余儀なくされた。

#### 1 吟道に関する研修会、講習会及び大会の開催

##### 一 研修会・講習会

##### (1) 日本吟道夏季大学講座

令和2年8月1日(土)及び2日(日)の2日間、埼玉県川口市川口総合文化センターで開催予定であった日本吟道夏季大学講座は中止とし、日本吟道会館ホールにおいて、講師一人一人の講義模様を音と映像に収めて、「DVD 視聴覚教材」を制作し、「今こそ詩吟、朗吟讃歌で断ち切れコロナ!」をスローガンに、創立40周年記念「日本吟道DVD 夏季大学講座」として開催した。

参加人数 764名

##### (2) 中国国際詩歌節

令和2年10月23日(金)～29日(木)の間、中国に渡航しての中国国際詩歌節の詩吟大会への参加は中止し、令和2年10月28日(水)日本吟道会館ホールにおいて、「第32回馬鞍山李白詩歌節“山川異域・詩意重陽”オンライン中日詩吟交流大会」にリモート参加し、日中友好を図った。

参加者 中西理事長以下16名

##### (3) 地区吟道講習会

詩歌吟詠に関する研鑽を深め、広く吟道を普及するため、次の地区が主体となって講習会の計画を立てたが、コロナウイルス禍により、全ての地区吟道講習会は中止した。

##### ① 北関東地区

令和2年12月6日(日) 中止

##### ② 千葉・茨城地区

令和3年2月6日(土) 中止

##### ③ 東京地区

令和3年2月23日(火) 中止

##### ④ 神奈川・山梨地区

令和3年2月6日(土) 中止

##### ⑤ 三重地区

令和2年6月7日(日) 中止

##### ⑥ 中国地区

令和2年4月12日(日) 中止

- ⑦ 西部九州地区  
令和2年9月27日（日） 中止
- ⑧ 南部九州地区  
令和2年10月4日（日） 中止

#### (4) 指導者育成推進講習会

吟道を広く普及するため、詩歌吟詠の指導者育成とその指導力を強化することを目的として、全国各地で研修計画を立てたが、新型コロナウイルス禍により各地区全て中止した。

- ① 北海道地区  
令和2年5月24日（日） 中止
- ② 東北地区  
令和2年7月24日（金） 中止
- ③ 北関東地区  
令和2年8月16日（日） 中止
- ④ 南関東地区（埼玉、千葉・茨城、東京、神奈川・山梨）  
令和2年11月15日（日） 中止
- ⑤ 北陸地区  
令和2年8月30日（日） 中止
- ⑥ 中部地区  
令和2年7月26日（日） 中止
- ⑦ 三重地区  
令和2年9月6日（日） 中止
- ⑧ 中国地区  
令和2年8月30日（日） 中止
- ⑨ 西部九州地区  
令和2年9月27日（日） 中止
- ⑩ 南部九州地区  
令和3年2月28日（日） 中止

#### (5) 講師特別錬成会

令和2年4月4日（土）東京都文京区 日本吟道会館で開催予定であった、本部の指導的立場にある本部役員及び吟士権者等を対象とする、理事長等の上級指導者、外部講師による錬成会は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止した。

## 二 吟道に関する大会の開催

日頃の吟道精進の成果を披露し、他の人の吟詠を聴き自己研鑽に努め、更に一般の人々に吟詠の魅力を周知し吟道の普及に資するため、下記諸大会を開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い一部を除き中止とした。

### (1) 日本吟道全国大会

令和2年5月31日（日）鹿児島県奄美市奄美文化センター 全国の会員を対象とした第70回日本吟道全国大会は中止

## (2) 日本吟道青少年全国大会・壮心の集い

令和3年3月、開催予定であった幼少年及び青年を対象とした日本吟道青少年全国大会・壮心の集いは中止

## (3) 日本吟道名吟大会

令和2年10月25日(日)東京都江戸川区 タワーホール船堀で開催予定であった会員の吟詠力の向上と、一般の人々に対する吟詠の普及を図ることを目的とした日本吟道名吟大会は中止

## (4) 日本吟道全国吟詠コンクール決選大会

令和2年10月25日(日)東京都江戸川区 タワーホール船堀で開催予定であった、全国各地より選抜された会員による、第7回日本吟道全国吟詠コンクール決選大会は中止

## (5) 日本吟道壮心大会

令和3年3月、開催予定であった各地区が主体となって行う、原則65才以上を対象とする日本吟道壮心大会は、全地区中止

## (6) 国際文化交流事業

令和2年6月20日(土)東京都文京区 日本吟道会館において開催予定であった、中国江蘇省鐘山昆歌五星団隊服務会一行約30名との昆歌と詩歌の交流会は中止

## 2 吟道に関する普及活動への支援

吟道の普及活動を行うに当たり、全体的に活性化された活動が行われるよう、人的、財政的支援計画を立てたが、コロナ禍によって活動が停止され、下記支援は行わなかった。

### 一 公認団体の吟道大会への支援

公認団体の周年記念大会に際して、本部からの役員の派遣及び大会経費の一部助成等の支援

### 二 地域活性化、吟道普及につながる事業の支援

### 三 各地の敬老会、養護施設、学校その他への慰問・指導

## 3 吟道に関する調査研究及び広報事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法並びに作詩法の研究・指導機関として、「新世紀の吟詠研究会」を中心とした研究活動を行うとともに、その成果について、広報誌等を通じて公表した。

### 一 吟道に関する調査研究

#### 詩歌吟詠法及び作詩法に関する研究会

#### (1) 新世紀の詩歌吟詠法及び作詩法に関する吟詠研究会

平成の新文芸として登場した「五行歌」に着目し、新ジャンルとして「新世紀の吟詠研究会」メンバーを中心とした五行歌研究会を発足して研究活動を行い、全国から作品を公募の上「五行歌吟詠集100」及び「五行歌CD吟詠集25」を制作し、公募入選作品、入選者のよるこびの声を吟道誌に掲載しその成果を公表した。

#### (2) その他の調査研究

その他、必要に応じて随時調査研究を行った。

### 二 広報事業

不特定多数の人に吟詠を普及するため、吟道に関する各種資料、調査研究の成果等を公表するべく、次の広報事業を行った。

- (1) 広報誌「日本吟道」の刊行
- (2) 詩歌吟詠に関する出版物の刊行
- (3) ホームページによる広報活動
- (4) その他、マスコミ、公共団体等を活用した広報活動

## 第2 収益事業等

公益目的事業を補完し、これを積極的に推進するため、次の収益事業及び共益事業を行った。

### 1 収益事業

#### 一 吟道に関する教本及び教材並びに物品等の販売

#### 二 段級位、伝位及び師範位の認定

- (1) 吟詠の技術の向上に伴い、段級位、伝位の認定を行った。
- (2) 指導技術の向上に伴い、師範位の認定を行った。

### 2 共益事業

主として本学院の会員を対象とする次の事業を行った。

#### 一 功労者の顕彰及び表彰

- (1) 吟道発展に寄与し、特に功労顕著な者に、冠称を贈り顕彰した。
- (2) 吟道普及に功績のあった公認団体の代表者に対して感謝状を贈り表彰した。
- (3) 吟道普及に功績のあった会員を褒賞した。
- (4) 吟道普及に功績のあった公認団体を表彰した。
- (5) 永年にわたり吟道を研鑽した高齢者を表彰した。
- (6) その他、随時、吟道普及に功績のあった会員を表彰した。

#### 二 正会員・個人賛助会員吟道大会

令和2年6月14日(日) 東京都千代田区 主婦会館で開催予定であった正会員・個人賛助会員吟道大会は、コロナウイルス禍の為に中止した。

#### 三 新春賀詞交歓会

令和3年を希望のある年とするため、コロナウイルス感染防止策を講じ、新年最初の行事として、下記の通り、「WEB会議システム」を利用した賀詞交歓会を開催した。

令和3年1月9日(土) 10時から12時

東京都文京区 日本吟道会館

参加人員 会場参加10名 オンライン参加50名 合計60名

### 3 その他、目的を達成するために必要な事業

#### 一 記録の制作と保存

令和2年は、創立40周年に当たることから「公益社団法人日本吟道学院 創立40周年のあゆみ」を制作し、本学院の事業等に関する記録を保存するとともに、全会員に配布した。

#### 二 令和2年11月1日(日) 東京都千代田区 日本武道館(公財)で開催予定であった日本吟剣詩舞振興会主催の第52回全国吟剣詩舞道大会・全国吟詠コンクールは、中止となった。

- 三 その他、目的を達成するために必要な事業を行った。

## 第3 報告事項

### 1 吟道振興新生イキイキ5ケ年計画について

平成30年度「吟道振興新生イキイキ5ケ年計画」を策定し、理事長を実行本部長、5名の執行役員が各推進本部長として、次の5つの具体的目標を掲げて事業を展開した。

- 一 会員減少の歯止め及び会員7000人体制の確立（会員増強推進本部）
- 二 組織・事業の見直し及び活性化（組織・事業推進本部）
- 三 全13地区体制の充実及び活性化（地区活性化推進本部）
- 四 指導者及び後継者育成事業の推進（次世代開発推進本部）
- 五 他流・他団体との交流及び連携（交流連携推進本部）

#### 計画3年目の令和2年度の結果は次の通り

- 一 最も身近な「詩吟無料体験教室」の全国展開を図るべく、詳細なマニュアルを作成し進めてきたが、コロナ禍の緊急対策等で、国民の生活行動そのものが制約され成果を上げることはできなかった。今後も地道に活動を展開していきたい。
- 二 事業の見直しについては、新型コロナウイルス問題で困難な状況下において、五行歌吟詠集の制作、DVD 夏季大学講座、オンラインによるリモート理事会・日中詩吟交流大会・賀詞交歓会・地区代表者会議等すべて前向き姿勢で取り組んだ結果、新たな可能性が芽生えた。
  - 9月1日（火）、日本吟道会館において視聴覚教材の制作を目的とした「日本吟道DVD 夏季大学講座」を開催、
  - 10月28日（水）第32回馬鞍山李白詩歌節“山川異域・詩意重陽”オンライン中日詩吟交流大会に、リモート参加した。
  - 1月9日（土）、新春賀詞交歓会をリモート開催した。
  - 執行役員会・理事会をリモート開催した。
- 三 地区別公認団体代表者会議は、唯一東北地区が3月22日（月）オンラインで開催し、本部からは中西理事長以下5人の役員が参加した。
- 四 重点課題の一つである「教材の充実」に関しては、吟道範典第12巻（五行歌）を刊行するとともに、「吟士権者の積極活用」によりCD等の教材を制作した。

また、夏季大学講座についても、集合しての講座は避け、CD・DVD等の教材を制作した。
- 五 夏季大学講座を開催するにあたっては、五行歌の会主宰 草壁焰太先生を特別講師として招待し、他団体との交流を図った。また、中国国際詩歌節にリモート参加し、詩吟を通じて日中の交流を図った。

以上